

サクラ属の新雑種

奥原 弘 人・松田 行 雄

H. Okuhara and Y. Matsuda : A new hybrid between *Prunus apetala* and *Prunus nipponica*

はじめに

浅間温泉裏山戸谷峰（海拔1629.1 m）より三才山峠（海拔1504.9 m）にかけて小泉秀雄（1926）はオクチョウジザクラのあることを報告した。筆者らは1975～1977年にかけて当地域の植物調査に数回でかけたが前種を確認できずに烏帽子岩（1530m）付近でチョウジザクラに似たサクラを数ヶ所で採集した。その後標本を久保田秀夫氏に見ていただいたところ、チョウジザクラと他のサクラとの雑種の疑いが強いから一度現地を訪ねたいとの連絡をいただき1978年6月18日現地へ案内した。筆者らはその後も現地を調査し、久保田秀夫氏の助言をいただいて研究を続けたところ、チョウジザクラとタカネザクラの形質をそなえたもので、この両種の雑種とするのが妥当であると考えられるので、このサクラが烏帽子岩の近くに自生するので、その名に因んでエボシザクラと和名をつけて報告する。

稿を始めるにあたり現地でのご指導、助言並びに書簡によってご指導をいただいた前日光植物園主任久保田秀夫氏に深謝する。

生育地の概況

戸谷峰、三才山峠、武石峠（1760m）にかけては山麓から1200m前後はアカマツ、カラマツの植林地が続き、さらに上部はブナ林の伐採跡地に発達したミズナラ林で、急傾斜地や母岩の露出した尾根にはウラジロモミ、コメツガ、アカマツ林が残存してい

る。これらの林内にはサクラ類が多く、1200m付近の間にはチョウジザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、ミヤマザクラ、オオヤマザクラ、ケエゾヤマザクラ、イヌザクラ、ウワミズザクラ、シウリザクラ等が混生し、さらに1500m付近になるとチョウジザクラ、オオヤマザクラも上限となり、タカネザクラが見られるようになる。この地域のタカネザクラは若芽が紅色、花や萼も紅色の個体が多く、タケシザクラの名で呼ばれたこともある。武石峠から烏帽子岩にいたる稜線の周辺にはチョウジザクラとタカネザクラがみられ、エボシザクラもこれらの中に生えている。

エボシザクラの形質

高さ3～5mの亜高木で茎は株近くより分枝し斜上、樹皮は暗褐褐色で光沢はない。今年枝は暗褐色で花時は散毛があるがすぐに落ち無毛となる。前年枝は灰色で無毛である。花は葉と同時かやや早く開き、通常2～3個が散形状につく。花の苞鱗は粘着力があり、内側は扇形で腺がある。萼筒は8～9.5mm紅色、筒状で下部少しふくらみ、有毛、萼裂片は3～5mmで卵状三角形、縁に1～4個の先に腺のない鋸齒と僅かに毛がある。花卉は白色で1部に紅がある倒卵形、長さ6.5mm～9.5mm、幅5.0～8.5mm凹頭、基部は楔形をなす。雄しべは平均33本、花柱は長さ9.5～12.5mm、無毛又は1～2本の開出する散毛がある。成葉は広楕円形或は広倒卵形長さ6.5～9.6cm、幅4.0

図 1

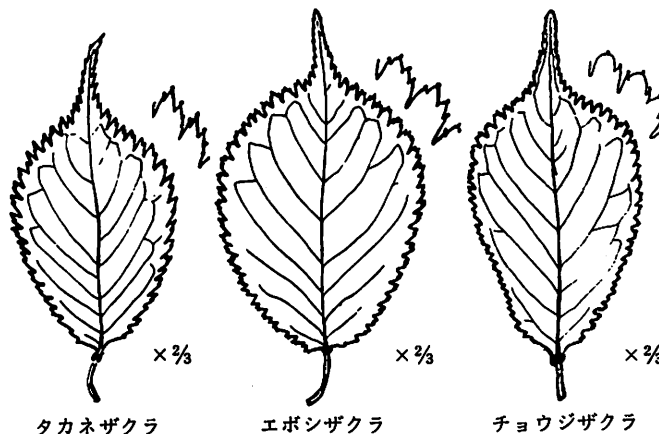


図 2

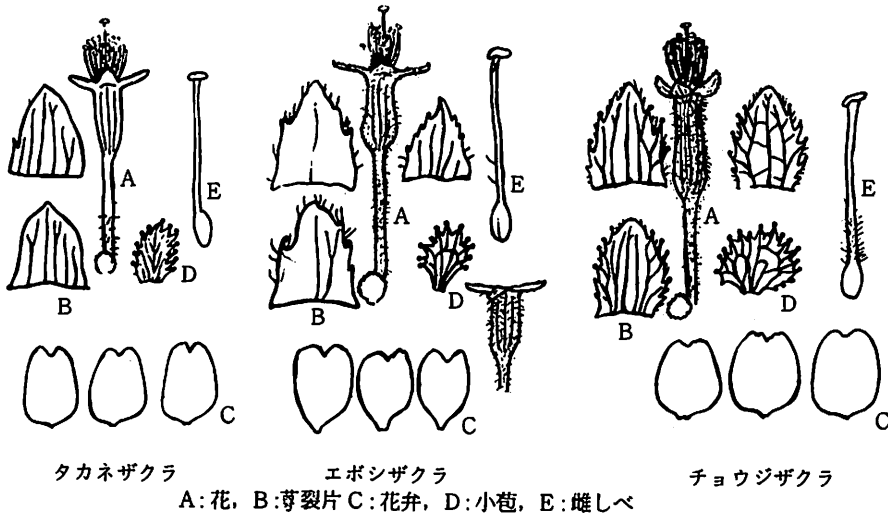
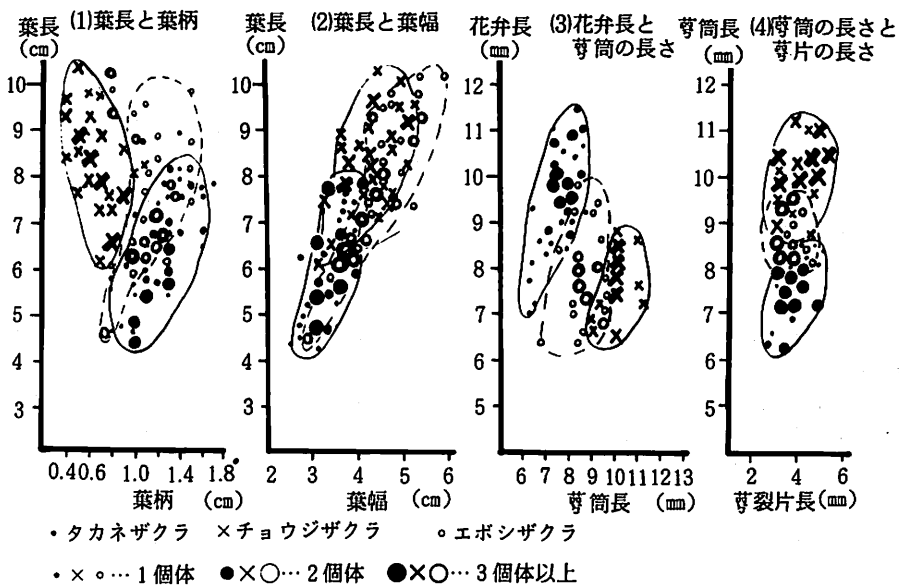


図 3



～5.5 cm, 基部は鈍脚或は円脚, 先は急に尾状鋭尖, 表面に散毛があり, 下面主脈と側脈に褐色毛がある。縁には欠刻状重鋸歯があり, 先はやや尖り腺で終る。葉柄は長さ 7～15mm, 開出する褐色の毛があり, 蜜腺は葉柄の上部にある。

エボシザクラの形質とタカネザクラ, チョウジザクラの形質と比較

(1) タカネザクラに近い形質

- ・今年枝, 前年枝は無毛
- ・葉の裏にある毛は少ない
- ・葉形は普通広倒卵形で葉の基部にくびれがない
- ・葉脈のはっきりする

- ・花弁の 1 部に濃い紅色が残る

(2) チョウジザクラに近い形質

- ・若枝に早落性の毛がある
- ・葉柄に開出する褐色毛が密生する
- ・萼筒の基部にわずかなふくらみがある
- ・葉の裏面がやや白みを帯びる
- ・標本にした時紙が黄色に染まる

(3) 中間形を示す形質

- ・葉の表に短い褐色毛が散生する
- ・葉の先端は両種共に尾状になるがその先端は中間形を示す (図 1)
- ・葉縁の鋸歯はタカネザクラでは先が尖り, チョウジ

- ザクラは丸みを帯びるがその中間形を示す(図1)
- ・タカネザクラの萼裂片は全縁鋸歯は時に1つ、一方
 チョウジザクラは縁毛と鋸歯、鋸歯の先端に腺が
 あるがエボシザクラは縁毛は少なく、鋸歯に腺が
 ない(図2)
 - ・花柱の毛はタカネザクラは無毛、チョウジザクラ
 は花柱の基部(1/3~1/2)に多数の開出毛を散生す
 るがエボシザクラは無毛時に1~2(5)本の開
 出毛がある(図2)
 - ・葉長と葉柄の関係(図3-(1))はチョウジザクラ
 は葉長が長く葉柄が短い、タカネザクラは葉長
 は短く葉柄は長い、その両方の形質をもっている
 - ・葉長と葉幅の関係(図3-(2))はチョウジザクラ
 は長くて幅広いが、タカネザクラは短くて幅も狭
 いエボシザクラは両種の形質がでている
 - ・花弁長と萼筒の長さの関係(図3-(3))はタカネザ
 クラは萼筒に比べて花弁は長く、チョウジザクラ
 は萼筒は長く花弁は短い、その中間にエボシザ
 クラがある。
 - ・萼筒の長さと萼裂片の長さの関係(図3-(4))は萼裂片
 はほぼ同長であるが萼筒の長さはチョウジザクラ
 は長く、タカネザクラは短い。その中間にエボシ
 ザクラがある
 - ・葉の葉柄につく蜜腺の位置はチョウジザクラは葉
 柄上部に22%、葉の基部に46%(32%は蜜腺は1,
 3,4個で不規則)、タカネザクラは葉柄上部69%葉
 の基部5%(26%は蜜腺1,3,4個で不規則)、エボ

シザクラは葉柄上部37%、葉の基部5%でやはり
中間形を示す。

その他各部の測定結果をまとめると表1の如くで
ある。

オクチョウジザクラをエボシザクラと比較すると、
オクチョウジザクラは長野県では北安曇郡白馬村、
小谷村・飯山市・下高井郡野沢温泉村方面に自生し、
中信地方には分布していないこと、花が大きく、萼
筒の基部はやや細まること、通常花柱は無毛であり、
葉柄、小花柄、葉の両面に毛の少ないことでエボシ
ザクラとは異なるものである。

なお本県の御岳の山地、下伊那・上伊那の山地、
岐阜県飛騨の高山地方の山地にはチョウジザクラ
の標準型と少し異って全体に毛が少なく、萼筒も基
部が少し細まるものがチョウジザクラより高海拔域
に生えており、久保田氏はこれをチョウジザクラの
深山型としてミヤマチョウジザクラ(*P. apetara*
var. monticola, *var. nov.* 未発表)と仮称して
いるが、中信地方にこの型のものが分布しているか
は今後更に精査する必要があると書簡で述べている。

エボシザクラの和名は小字名をとり、学名は地域
名をとって、*P. misayamaensis* Okuhara et
Matsuda とした。

標本は長野県植物誌作成資料として信大教養部標
本庫(Na 8487, 8488)に納めた。1部は科学博
物館に納める予定である。

表1 各部の平均の長さと割合の比較

	萼筒長	萼裂片長	雄ずい 本数	柱頭長	花弁長	花弁幅	葉柄長	葉長	葉幅	葉長 葉柄	葉幅長 葉柄	葉長 葉幅長
タカネザクラ	7.4	3.7	28.7	12.1	9.3	7.0	11.9	6.1	3.4	5.1	2.8	1.8
エボシザクラ	8.8	3.7	33.3	11.2	7.8	6.8	10.4	7.0	3.8	6.7	3.7	1.8
チョウジザクラ	10.3	4.1	31.8	11.0	7.7	5.8	6.3	8.3	4.2	13.0	6.6	2.0

- 小泉秀雄 1926 史蹟名勝天然記念物調査報告
第4輯 保護すべき千曲山脈の遺存寒地帯
403~557
- 久保田秀夫 1974 日本のサクラ 誠文堂新光社
—— 1977 ハケ岳山麓のサクラ 長野県植
物研究会誌 第10号 124~127
—— 1978 サクラノート 北陸の植物
Vol. 25 No. 4, 240~242
—— 1980 日本の野生のサクラ 花の友
No. 8, 19~23
- 大井次三郎 1972 日本植物誌 増補改訂版

〔植物ニュース〕54. シロオオバコ *Plantago*
asiatica L. f. *ochranthera* Mizushima

昭和56年の運動会の頃、グラウンドのオオバコに紫
と白色の葯の二型のあることに気づいた。葯の薄藤
色のものをオオバコ、黄白色のものをシロオオバコ
といい、水島(1967)によって報告(植研42:181)
されている。シロオオバコは長野県下では、初記録
であるが、各地にあると思われる。

御教示下さった高橋秀氏に感謝します。

採集地: 諏訪郡富士見町富士見 (横内文人)